

# 一少女ノ顔面癌(異時性多發性原發性癌腫ヲ思ハセル)ニ就イテ

金澤醫科大學熊埜御堂外科(主任熊埜御堂教授)

副 手 田 上 幸 治 郎

*Kojiro Tagami*

(昭和13年12月7日受附 特別掲載)

## 内 容 抄 録

12歳ノ時左側鼻唇溝部癌腫ノ手術ヲ受ケタ本年16歳ノ少女ノ左側下顎骨ニ昨年來再ビ腫瘍形成ヲ見、ソレモ顯微鏡的検査ノ結果同ジク癌腫ナル事ヲ知ツタガ之

ハソノ年齢、發生部位、並ビニ病因學的ニ「コーンハイム氏組織迷芽説ヨリシテ異時性多發性原發性癌腫ノ一例ト見做サレルドラウ、

## 目 次

第1章 序 言  
第2章 症 例  
第3章 考 按

第4章 結 語  
文 獻

## 第1章 序 言

一般ニ年少者ニ發生スル癌腫ハ成人ニ比シ極少數トサレテ居ルガ余ハ12歳ノ時左側鼻唇溝部癌腫ノ手術ヲ受ケタ本年16歳ノ少女ガ約一ヶ年前ヨリ左側下顎骨ニ腫瘍ノ形成ヲ見、ソレガ病

理組織學的検査ノ結果前患ト等シク扁平上皮癌ト診断サレタ一例ヲ經驗シタガ、ソノ比較的若年者ニ前後シテ癌ガ發生シ又ソノ部位ニ就イテモ特性アル故之ヲ報告スル。

## 第2章 症 例

患者 島○澄○, 女, 12歳, 農業族。  
主訴 左側鼻唇溝部腫瘍形成。  
家族歴 父系祖父72歳ニテ健, 父系祖母59歳ニテ胃癌ヲ患ヒ死亡, 母系祖父母共ニ死亡, 父母共ニ夫々36歳及ビ33歳ニテ健, 兄弟3名健, 患者ハ第2子。  
即チ遺傳素因ニハ癌ヲ見ル。  
既往歴 特記スベキモノナシ。

現病歴 昭和8年10月左側鼻唇溝部ニ豌豆大ノ腫瘍形成ヲ認メ爾來徐々ニ大キクナリ拇指頭大トナル。シカシ他ニ何等違和感ヲ伴ハス。昭和9年10月24日當科ヲ訪ネル。

局所々見 左側鼻唇溝ニアリムシロ鼻翼ニ接シ約拇指頭大ノ硬結アリ, 被覆皮膚ハヤ、赤味ヲ帶ビ膨隆シ硬結ト強ク癒着ヲ營ム。腫瘍境界ハ明カデアルガ尙周

固ニ僅カニ浸潤スルヲ認メル。

全身所見 何等特記スベキ所見ナク特ニ顎下腺其他身體諸所ノ淋巴腺ノ腫脹ヲ認メヌ。

處置 入院翌日(25日)悪性腫瘍疑似症ノ診断ノ下ニ腫瘍剔出術施行。腫瘍ハ周圍組織トノ癒着高度ナラズ容易ニ剔出サレル。完全皮膚縫合ヲ行ヒ術後4日目に退院。腫瘍ハ病理組織學的検査ノ結果扁平上皮癌(附圖第1, 第2参照)デアル。

診断 左側鼻唇溝部扁平上皮癌。

斯クテ當科退院後暫時ニシテ手術創ハ第一次閉鎖ヲ見, 其後局所ニ腫瘍ハ再發ヲモ訴ヘズニ經過シタガ昭和12年8月初旬ニ至リ左側下顎骨下縁ニ小指頭大ノ腫瘍形成ヲ認メタ。ソノ腫瘍ハ硬度大デ移動性ナク時々鈍痛ヲ訴ヘルガ當時左側下大臼齒ノ齶齒ヲモ認メタ故ソノ結果ナラント放置シテオヒタガ該腫瘍ハ齶齒ノ治療ニモ拘ラズ徐々ニ増大シ本年2月ニ至リ約10cm×3cmノ大キサトナリ同時ニ軽度ノ牙關緊急ヲ伴フニ至ル。斯ク腫瘍ガ増大シテモ硬度ハ依然トシテ大デ軟化ノ様子ナク又被覆皮膚ニモ殆ソド著變ヲ見ナイ。爾後某病院ニテ「レントゲン」深部治療ヲ受ケルニ至ツタガ腫瘍ノ増大ハ依然トシテ止マズ, 牙關緊急ノ度モ大トナリ且自然痛モ作ヒ殊ニ夜間ニ甚ダシイ。6月下旬同病院ニテ左側下顎骨縁ニ切開手術ヲ受ケ又「レントゲン」深部治療モ7月下旬迄續行シタガ少シモ良化セズ本年9月26日當科ヲ訪ネ入院スルニ至ル。

現症 身體略々羸瘦貧血性ニシテ顔貌モ苦惱的, 皮膚ニ發疹, 浮腫又ハ黃疸ヲ認メヌガ乾燥。呼吸肋腹型正常數, 脈搏80整正, 牙關緊急高度デ約2cm以上ノ開口不能, 舌被苔ナク濕潤スルガ食思不振, 頭部正常, 瞳孔ハ左右同大圓形ニシテ對光反射迅速, 心, 肺腹部ニ特記スベキ所見ナク肝脾ノ肥大モ認メヌ。兩側下肢ノ腱反射稍減弱, 脊椎ニ異常ナイ。

顔面ハ左側下顎骨ニアリ頤下ヨリ耳翼後部ニ亘リ硬

度大ナル瀰散性ノ腫脹アリ, ソノ被覆皮膚ハ一様ニ淡褐色ヲ帶ビルガソノ中央部ハ暗赤色トナリ略々軟カキ感ヲ呈スル。同所ニハ以前ニ受ケタ切開手術創ガ閉鎖セズ特ニ膨隆シ石榴實様ノ外觀ヲ呈シ容易ニ出血スル。腫瘍ノ上端ハ左側頰部ニ迄及ビソノ下端ハ喉頭部ニ達シ全體トシテ約15cm×5cmノ大キサトナリ壓痛甚ダシイ。

尙左側鼻唇溝ニ沿ヒ約2cmノ手術創アルガ之ハ以前ニ當科ニ於テ扁平上皮癌ノ剔出術ヲ受ケタ跡デアル。

其他特ニ淋巴腺ノ腫脹ヲ身體各部ニ就キ探シタガ全ク之ヲ認メズ。

糞尿検査 特記スベキ所見ナシ。

血液検査 赤血球數330万, 「ヘモグロビン」含有量82%(ザーリー), 白血球數7800, 中性多核白血球64%, 「エオジン」嗜好多核白血球4%, 淋白血球28%。大單核白血球及ビ移行型4%, 赤血球沈降速度(ウェスターゲレン)1時間70, 2時間115, 24時間120, 中等價64, ワ氏, 村田氏及ビ「マイニツケ」氏反應何レモ陰性。

「レントゲン」所見左側下顎骨底ハ頤關節ヨリ下顎角迄半圓ヲ描キ相當高度ニ破滅サレテ居ル。(附圖「レントゲン」像参照)

處置及ビ轉歸。10月1日腫瘍ヨリ試験片ヲ攝リ病理組織學的検査ヲナシ扁平上皮癌ト診断サル。(附圖第3, 第4参照)。斯クテ榮養モ不良ニテ局所々見モ殆ソド外科的ニハ手術不能ノ状態デアルガ家族ノ切ナル願望ニヨリ10月11日癌腫ノ大半ヲ切除シ(腫瘍ノ下端ハ喉頭ニ及ビ強ク左側頸動靜脈間ニ浸潤シ且左側胸鎖乳頭筋ノ過半ヲ被覆シ下顎骨ヲ破滅スル。上部ハ左側耳下腺ト一部密着シ頰軟部組織殊ニ咬筋ノ存在ハ全ク不明トナリ將ニ口腔内ニ穿孔セントシテ居ル)。電氣凝固術ヲ加ヘ術後15日ニシテヤ、元氣回復シタ故退院スルニ至ル。

### 第3章 考 按

本例ハ11歳(滿10歳數ヶ月)ニシテ癌ノ初發ヲ見タモノデンカモ相前後シテ顔面軟部下顎骨ニ發生シタモノデアル。

總ジテ癌ノ發生ハ所謂 Krebssalter ナル言葉ノ存スル様ニ洋ノ東西, 時ノ古今ヲ論ゼズ高齢者ニ多ク青少年者ニモアルニハアルガ大體少ナイモノトサレテ居ル。試ミニ十數氏ノ種々ナル目的

ノタメニ發表サレタ論文ヨリ若年者ニ於ケル癌發生頻度ヲ表ニシテ見ルナラバ, (第1表)30歳以下ノ若人ニハ觀察全癌例數ニ對シ3.72%ノ結果ヲ見ラレル。更ニコノ結果ヲ10年毎ニ細分シテ見ルト20歳代ハ3.64%デ最モ多ク, 10歳代ハ0.47%, 10歳以前ニアツテハ僅カニ0.24%ヲ占メルノミデアル。尙第1表ニハ記載シナイガ

Philipp 氏ニヨレバ15歳迄ノ者ニ0.23%ノ癌患者ヲ見タト云ハレ、Weinlechner 氏モ癌剖檢5279例中14歳迄ノ者ハ18例ヲ數ヘ、又表中ノ石橋、

鷹津氏例モ20歳ヨリ17歳迄ハ2例、16歳以下ハ6例ト云フ數ヲ見テ居ル。

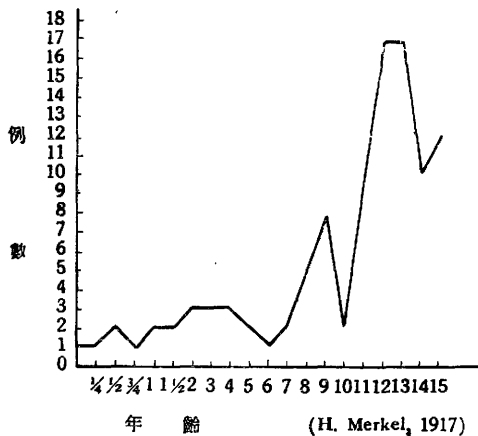
第 1 表

著 者 名	觀 察 例 數	30歳以下 例數(%)	30歳—21歳 例數(%)	20歳—11歳 例數(%)	10歳—0歳 例數(%)
Egenolf (1921—27)	2496	3.4	2.8	0.48	0.12
Fibiger u. Trier (Dänemark)	1062	1.69	1.51	0.09	0.09
Gibson	365	5.84	3.29	0.82	0.27
Guldberg	4612	3.4	—	—	—
Junghanns (Dresden)		0.93	0.83	0.1	0
Neves	1188	2.16	4.13	1.44	0.59
Orsos (Debrezen)	1364	1.83	1.61	0.15	0.07
Rosenberg (München)	4048	2.0	—	—	0.59
Schamoni (im Friede)	1629	5.26	4.57	0.38	0.31
"    (im Kriege)	527	5.5	4.82	0.49	0.19
Weisensee (1919—20)	1561	2.18	1.8	0.19	0.19
Wildbolz	4973	1.7	—	—	—
石 橋、鷹 津	802	6.7	5.86	—	—
鈴 木 (信)	1129	9.5	8.85	0.53	0.27
平 均	1981	3.72	3.64	0.47	0.24

斯ク多クノ先輩ニ依リ青少年者ニ癌ノ發生ヲ見ル事ハ甚ダ少ク且年少者ニアリテハ僅カニ大人ノ0.3乃至0.5%ノ癌發生頻度ヲ有スル事ガ明カニサレ、殊ニ10歳以下ノ幼年者ニハ極端ニ少數トナリ僅カニ10歳前後ニ於イテ少シク増スト云ハレテ居ル(「メルケル氏曲線參照」)。

次ニ年少癌患者ノ發生部位ノ裡皮膚癌ハ如何ナル頻度ヲ示スカヲ文獻ニ依リ見ルニ M. T. Aboulzahab 氏ガ年少癌患者182例ヲ集メソレヲ發生部位別ニシテ居ルガソレニ依ルト最モ多イノハ肝臟デ50例、次ガ消化器系統デ44例、第三ハ生殖器デ37例ヲ示シ皮膚癌ハ19例デソノ次ニ位シテ居ル。即チ皮膚癌ハ10.4%ノ割合ニ發生シタ事ガワカル。次イデ P. W. Philipp 氏ニ依レバ16例(17.2%)ノ皮膚癌ヲ數ヘ、Guldberg 氏ニ依レバ12.1%ヲ見、L. Weisensee 氏ニ依レバ消化器系統ノ50%ニ次イデ多數(14.7%)ヲ見テ居ル。尙同氏ハ同時ニ30歳以上ノ皮膚癌患者ヲ集メタ所12.4%ノ頻度ヲ示ス事ヲ附ケ加ヘテ居ル。之ト同ジ事ガソノ他ノ數氏ニ依リ發表サレタガ——Schamoni 氏ニ依レバ30歳以上ト30歳以下デハ皮膚癌ノ發生頻度ガ9:5%、Fibiger und Trier 氏等ニ依レバ10:6%——大體以上ノ事ヨリ年少皮膚癌患者ハ成人同患者ニ劣ラズ相當ノ數ニ於イテ見ラレル事ガ知ラレルノデア

メルケル氏曲線圖



ル。而シテ年少者ノ皮膚癌モヤハリ9歳ヨリ12歳ノ間ニ最モ多ク見ラレテ居ル。

一般ニ皮膚癌ハ顔面皮膚ニ好發スルト云ハレ或ハ全身ニ生ズル癌ノ凡ソ七分ノ一(Gurlt氏)又ハ十分ノ一(Heimann氏)ヲ占メルト云ハレテ居ルガ同ジ顔面デモ下口唇ニ最モ多ク鼻、眼瞼、頬部、耳聾顳部、上唇、頰部ノ順ニ見ラレ

ルト。Borrmann氏ガ290例ノ皮膚癌ニ關スル症例報告例ニ依レバ鼻唇溝ニ生ジタ癌腫ハ6例(16.2%)ヲ數ヘテ居ル。又近年Frieboes氏ハ皮膚癌殊ニ顔面癌ニ就イテノ明細ナ分佈状態ヲ表示シタガ(第2表)年少者ノ皮膚、顔面癌モ恐ラク以上ノ關係ニアルモノト想像サレル。

第2表 Sitz der Hautkrebsfälle

Region	Basalz.-Epith.			Spino.-Epith. (u. Gem)			Hautkrebsfälle in %	
	♂	♀	Ges. in %	♂	♀	Ges. in %	♂	♀
Orbita	24	21	12.1	2(1)	5(1)	4.1	9.1	10.0
(davon innere Augenwand)	6	13		—	1(1)			
Wange	45	30	20.2	7(1)	4	6.4	18.3	13.1
(davon Nasolabialfälle)	13	6	5.1	1	1	1.2	4.9	2.7
Nase	38	60	26.4	8(3)	6(2)	8.1	16.2	25.4
Stirn	7	23	8.1	—	10	5.8	2.5	12.7
Schläfe	17	18	9.5	4	8(1)	7.0	7.4	10.0
Ohr	13	13	7.0	6(2)	3(1)	5.2	6.7	6.2
Unterlippe	1	—	0.2	39	3	24.4	14.1	1.2
Oberlippe	6	7	3.5	2	1	1.7	2.8	3.1
Kinn u. Kieferwand	4	8	3.2	2	—	1.2	2.1	3.1
Gesicht (ohne Angabe)	1	5	1.6	2	1	1.8	1.1	2.4
Gesicht (gesamt)	156	185	91.8	72(7)	41(5)	65.7	80.3	87.2
Sonstige Localitäten	15	15	8.2	41	18	34.3	19.7	12.8
Insgesamt 543	171	200	371=100%	113(7)	59(5)	172=100%	284=100%	259=100%

今余ガ症例トシテ取扱ツテ居ル少女ノ癌ハ鼻唇溝部ト下顎骨ニ時ヲ異ヘテ生ジタモノデアルガ之ハ第2表ヨリ見レバ共ニ全顔面癌ノ5%ニモ滿タナイモノデアル。而シテ共ニ扁平上皮癌ト確認サレタモノデアルガ、コノ2個ノ癌腫ガ果シテ所謂多發性原發性癌デアルカ否カハ甚ダ興味ヲ惹ク問題デアル。

1874年 Volkman氏ニ依リ多發性「タール及ピ」パラフィン癌ノ發表アリ、1889年 Schimmelbusch氏ノ多發性皮膚癌腫ニ關スル記載ヲ見テカラ同種ノ報告ガ陸續トアラハレソノ數モ枚舉ニ違ナイ位デアル。シカシソノ頻度ハ甚ダ少イモノトサレ Riechelmann氏ハ觀察全癌患者771名中多發性原發性癌腫ト認メラレタモノガ2.0

%、M. I. Maljatzkaja氏ハ Barlett氏以下九氏ノ統計ヨリ大體0.2%ヨリ1.59%ノ間(平均0.76%)ニソノ頻度ヲ有スル事ヲ認メタ。又 Chajutius氏ニ依レバソレハ大體0.08%ヨリ0.67%ノ間ニ介在シ J. Körbler氏ノ報告例ニ依レバ1931年「ラヂウム」研究所デ癌腫トシテ處置サレタ患者ノ裡8例(6.4%)ニ多發性ガ見ラレタガソレハ同時ニ婦人科方面ノ例數ヲモ含マセルト之ハ3%トナル。コノ種ノ報告ハ本邦ニ於テモ試ミラレク留氏ノ集メタ例ニ依レバ癌剖見數14774名ノ裡223名(1.5%)ノ重複例ヲ見、石野氏ノ集メタ例ニ依レバ大體0.4%ヨリ2%(平均1.3%)ノ數ニ達シテ居ル。

斯クテ癌腫ノ多發性原發性ト云フ事ハ全癌患

者數ニ對シ大體 0.2% ヨリ 4.3% ノ間ニアル事ガ想像サレル。

シカシ多發性原發性癌腫モ主ニ高齡者ニ見ラレ、50歳以下ニナルト稀ナモノトサレテ居ル(Siebke 氏等)。從ツテ幼少者ニアツテハ更ニ少イ事ガ肯カレルガ全クソノ例ヲ見ナイノデハナイ。即チ Hutschinson 氏ハ生後間モナキ乳兒ニ表皮癌ノ多發ヲ認メ之ガ約五ヶ月ノ間ニ全身ニ小豆大狀ノ腫瘍トシテ擴ツタ事ヲ記載シテ居ル。

一般ニ多發性原發性癌トハ同一器官(或ハ同一系統ノ器官)又ハ異ナル器官(或ハ異種ノ系統器官)ニ2個又ハソレ以上ノ獨立性癌ガ同時ニ又ハ時ヲ異ヘテ生ズル場合ヲ云フノデアル(Ribbert, Theilhaber u. Edelberg 氏等)。同一器

官(或ハ同一系統ノ器官)トシテハ皮膚ガ第一ニ擧ゲラレ、異ナル器官(或ハ異種ノ系統器官)トシテハ種々ナル組合セガアリ二、三ソノ例ヲ見ルト皮膚ト胃(Roesch 氏)、皮膚ト膀胱(Künzel 氏)、肝臟ト乳腺(小野、星野氏)、胃ト盲腸(石野氏)、直腸ト子宮及ビ盲腸ト直腸(久留氏)、S字狀結腸ト胃及ビ乳腺ト胃(鈴木氏)、胃、空腸、卵巢(天野氏)等々ガアルガ概シテ皮膚、消化器、肺臟及ビ生殖器ノ諸臟器ノ間ニヨク見ラレルモノデアル(Müller, Junghans 氏等)。

皮膚癌ノ裡顔面癌ニ就イテハ Borrmann 氏ガ 235 例中 51 例 (21.7%) ノ多發性ヲ認メソノ裡 21 例 (41.2%) ハ局所ノ多發、24 例 (47.0%) ハ隔絶セル多發、残りノ 6 例 (11.8%) ハ兩者ノ混合型デアリ時間的ニ分類スレバ 12 例ハ同時ニ發生シ、

第 3 表 異時性多發性原發性癌腫例

著者名	位置	摘要	例數	
Borrmann	1	前頭部癌	眼瞼癌手術後1年ニシテ生ズ	2
	2	左側々頭部癌	3年前右側々頭部表皮癌手術	
	3	右側々頭部癌	3年前左側々頭部癌手術	1
	4	前頭部癌	右側頰部癌剔出後3/4年	1
	5	右側下眼瞼癌	1年前々頭部癌發生	1
	6	左側鼻翼癌	1年前右側頰部癌	1
	7	右側頰部癌	3/4年前前頭部癌	1
	8	耳癌	1年前同側耳殼癌	1
	9	右側鼻癌	以前ニ鼻背癌、爾後右側耳癌、ソノ他頰部、右側々頭部及ビ耳癌	1
	10	左側頰部癌	11/4年前右側頰、耳殼癌	1
	11	眼鼻角癌	7年以前ニ鼻背癌	1
	12	鼻背癌	2年前同所ノ深部ヨリ癌剔出	1
	13	鼻背癌	2年來左側頰部癌	1
Deprés	口唇癌	17年前耳殼癌	1	
Goldenberg	子宮癌	12年前陰門癌	1	
Michael	下腿癌	7年前子宮腔部癌	1	
Billroth	1	舌癌	16年前頰粘膜ニ癌發生	3
	2	口唇癌	以前ニ反對側口唇癌手術	
Körbler	1	右側頰部癌	數年前子宮癌ノ手術施行	1
	2	鼻癌	2年以前ニ子宮癌發見サル	1
	3	左側上口唇癌	17年前左側下口唇癌ノ手術施行	1
	4	下口唇癌	20年前上口唇癌ノ手術ヲ行ヒ、2年前ニ下口唇癌ノ手術ヲ行フ	1

18例ハ以前ニ一度癌腫ノ別出術ヲ受ケタモノデ所謂異時性多發性原發性癌腫デアル。

コノ異時性多發性原發性癌腫ノ症例ハ Borrmann 氏ノ他 Goldenberg, Michael, Körbler, Billroth, Hutschinson 及ビ Deprés 氏等ニ依ツテモ報告サレテ居ルガソレニ依レバ割合ヒ屢々見ラレルモノデアル(第3表)。

シカシ多發性原發性癌腫ノ決定ト云フ事ハ嚴密ナ意味カラ云ヘバ相當困難ナ事デ今日尙ソレニ對シ満足ナ解答ガ與ヘラレテ居ナイ。カ、ル事ニ關シ早期ニ記載シタノハ Billroth 氏デ彼ハソノ決定ニ次ノ三條件ヲ必要トシタ。

1) 夫々ノ腫瘍ハ夫々異ツタ組織學的構造ヲ示サナケレバナラス。

2) 夫々ノ腫瘍ハ組織學的ニ夫々ソノ母地ヨリ導カレタモノデアル證明ヲ要スル。

3) 夫々ノ腫瘍ハ夫々自身ノ轉移ヲ證明シナケレバナラス。

シカシコノ三條件ノ満足ハ餘リニ嚴格過ギテ普遍妥當性ヲ帶ビヌ憾ミガアル。カ、ル意味ニ於イテ Oberndorfer 氏ハ Billroth 氏ノ三條件ニ對シ次ノ如キ批判ヲ下シテ居ル。即チ第一條ニ對シテハ腸粘膜ト乳房ニ多發スル癌ハ兩者共ニ硬性癌デ組織學的ニ大差ナクトモ之ヲ原發癌ト云ツテ差支ヘナイ。又多發性皮膚癌ニ於テハ夫々ノ組織學的構造ニ差ナクトモ明カニ多發性原發性癌ト云ヒ得ル場合ガアル。第二條ニ對シテハ癌細胞ハ時々化性スル故癌細胞自身ヨリソノ基底ノ細胞ヲ追究シ難キ場合ガアルカラ基底細胞ノ形ヲ必ズシモ具備スル要ハナイ。又第三條ニ對シテハ癌腫ト雖モ轉移ヲ全ク見ナイ事ガアル。又轉移ガアツテモノノ形ガ全ク原發癌ト異ナルタメ原發癌ヲ求ムルニ困難ナ場合ガアルト述ベテ居ル。又最近 Goetze 氏モ Billroth 氏ノ三條件ニ變ヘルニ次ノ條件ヲ以テシテ居ル。

1) 個々ノ腫瘍ハ肉眼的並ニ顯微鏡的ニソノ生ジタ場所ニ日常見ラレル原發癌ノ像ヲ呈サネバナラス。

2) 周知ノ轉移, 移植等ノ法則ニ從ツテ一方ノ腫瘍ガ他方ノモノニ從屬的ノモノデナイ事

ガ證明サレル事ヲ要ス。

3) 腫瘍發生ニ都合ノヨイ共通ノ發生學的ノ異常, 或ハ病因學的ノ原因ガ存スル場合ヤ別々ノ轉移ノ證明サレル場合ハ多發ノ想定ヲ支持シ得。

シカシコノ Goetze 氏ノ條件ノ完備ト云フ事モ Pühr 氏ヤ Warren-Gates 氏等ニ依ルト多發性原發性腫瘍ノ診斷ニ必須ノモノデハナク, 近來ハ要スルニ個々ノ腫瘍ガ他ノモノニ從屬的ノナイト云フ事ガ充分證明シ得ラルレバヨイト云フ考ヘニ傾イテキテ居ル。勿論 Billroth 氏ヤ Goetze 氏ノ條件ハ腫瘍ノ多發性原發性ヲ確實ナラシメル事ハ誰シモ異存ノナイ所デアル。

翻ツテ余ノ症例ニ多發性原發性癌ナル診斷ヲ下シ得ルカ否カラ見ルニ別出サレタ癌ハ兩者共ニ病理組織學的ニ扁平上皮癌ト確定サレタモノデ之ハ年少者ノ顔面癌ニ最モ普通ニ見ラレルモノデアル(Weisensee 氏等)。次ニ家族歴ニ依リ癌ニ對スル遺傳的素因ノアル事ハ充分視ハレルガ年少者ノ癌發生ヲ考ヘルニ際シコノ遺傳的素因ハ特別重キヲ置イテ見ルベキデ夙ニ Vidal, Rosenberg, Rüder, Lain, Weisensee 及ビ天野氏等ニ依ツテ強調サレタ事デアル。更ニ年少者ノ癌發生ノ原因トシテ J. Cohnheim 氏ノ組織迷芽説ガ大人ノ場合ヨリ價値アルモノトサレテ居ルガ(Rosenbery, 天野氏等), 之ハ吾人ノ組織發育ノ初期ニ於イテ一定ノ胎生時期ノ細胞群ガ正規ノ組織形成ノ常軌ヲ脱シソノ組織内又ハ母細胞ヨリ離レタ所ニ存在シ, 後日何等カノ原因的要約(刺戟, 外傷, 破瓜期, 妊娠, 臟器退行等ノ如キ)ニ遭遇シ初メテソノ増殖性能ガ發展サレ腫瘍形成ヲ致スノデアルガコノ迷芽現象ガ屢々多クノ畸型ヲ齎ラス鼻唇溝, 下顎骨ノ如キ顔面部位ニ續發スル事ハヨク肯定サレル所デアル。

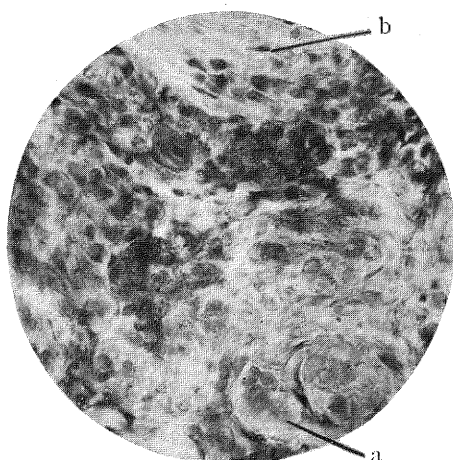
カ、ル事ヨリ本症例ハ年少者ニ現ハレタ多發性原發性癌腫ノ一例ト見做シ且 Borrmann 氏等ニ倣ヒ之ヲ異時性多發性原發性癌腫ト信ズルノデアル。

田上論文附圖

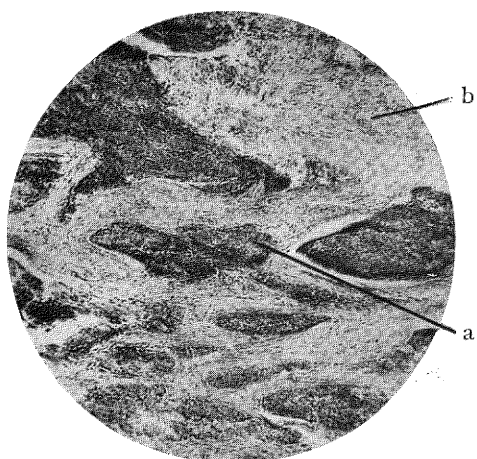
第1圖 顔面皮膚癌



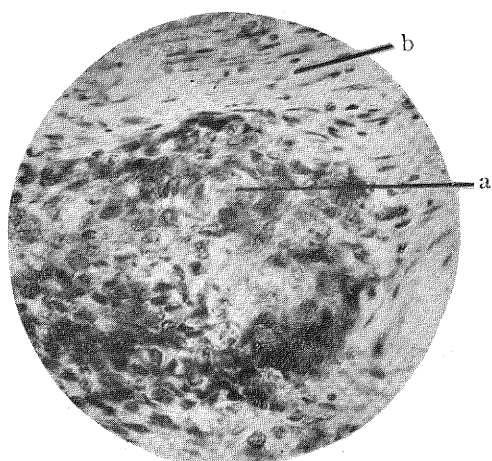
第2圖 顔面皮膚癌



第3圖 下顎骨癌



第4圖 下顎骨癌



島田某, 16歳, ♀, 下顎骨レントゲン像



## 第4章 結 語

余ハ比較的ソノ例數ノ少イト云ハレル年少者ノ顔面癌ノ一例ヲ經驗シタ。ソレハ11歳ノ時左側鼻唇溝ニ原發シソノ後四年ニシテ同側下顎骨ニ骨破滅ヲ來シ且牙關緊急ヲ伴フ程高度ニ發育セル癌腫ノ發生ヲ見タ。兩腫瘍ハ共ニ病理組織學的檢査ノ結果扁平上皮癌ト診斷サレルガ遺傳的ニ癌ノ素因ヲ有スル事及ビソノ發生部位ガ共ニ屢々畸型ノ見ラレル所デ病因學的ニモ Cohn-

heim 氏ノ組織迷芽說ニテ容易ニソノ多發性原發性ヲ認メシメラレル。

斯クテ余ハ發生ノ時間的差ヲモイレ本症例ハ Borrmann 氏等ノ所謂異時性多發性原發性癌ト認メルノデアル。

擧筆スルニ當リ病理組織學的檢査ニ際シ中村教授ノ御教示ヲ戴イタ事ヲ深謝シマス。

## 主ナル文獻

1) **Aboulzahab:** 2) **Philipp:** Chirurgische Kht im Kindesalter (Gohrbandt, Karger, Bergmann, 1928, Berlin). 3) **Borrmann:** Statistik u. Casuistik über 290 hist. untersuchte Hautcarcinom, Dtsch. Z. f. Chir. Bd. 76, II. 4-6, S. 404. 4) **Chajutin:** Zur Kenntniss der primär multiplen Karzinom d. weibl. Geschlechtsogane, Z. f. K. 26 (1928), S. 268. 5) **Frieboes:** Das Karzinom der Haut mit besonderer Berücksichtigung der Konstitution, neuere Ergebnisse auf dem Gebiete der Krebskrht. (Adam u. Auler, 1937. Leipzig). 6) **Goetze:** Bemerkungen über Multiplizität primärer Carzinome in Anlehnung an einen Fall von dreifachen Carzinom, Z. f. K. 13 (1913), S. 281. 7) **Kfrrbler:** Multiple Carzinom, Archiv. f. klin. Chir. 170 (1932), 505. 8) **Maljatzkaja:** Zur Kenntniss der multiplen primären Carzinome, Z. f. K. 35 (1932), S. 123. 9) **Rosenberg:** Carzinom im jugendlichen Alter; Z. f. K. 41 (1935), S. 23. 10) **Schamoni:** Carzinoma u. Sarcome, Z. f. K. 22 (1925), S. 24. 11) **Theilhaber u. Edelberg:** Zur Lehre von der Multiplizität der Tumoren, insbesondere der Car-

zinome, Dtsch. Z. f. Chir. 117 (1912), S. 456. 12) **Weisensee:** Über das Carzinom im jugend. Alter, Z. f. K. 41 (1935), S. 1. 13) **Wildtoltz:** Über Krebs bei Jugendlichen, Z. f. K. 33 (1931), S. 681. 14) **天野重要,** 諸臟器ニ現ハレタ多發性癌腫(臨床ト剖檢). 治療ト經驗, 2卷, 1冊, 109頁. 15) **石野塚三郎,** 多發性原發性癌ノ一例. 日本外科寶函, 13卷, 2號, 320頁. 16) **石橋松藏, 鷹津三郎,** 癌ノ統計的研究. 癌, 第9年, 第3冊, 196頁. 17) **小野茂三郎, 星野浩二,** 重複性癌ノ一例ニ就イテ. 北海道醫學雜誌, 第14年, 2121頁. 18) **角田隆,** 癌腫ノ外因. 臨床醫學, 20年, 4號, 500頁. 5號, 717頁. 19) **久留勝,** 同一人ニ於ケル惡性腫瘍殊ニ癌腫ノ多發性ニ就イテ. 大坂醫事新誌, 第7卷, 1083頁. 20) **佐々木計.** 膈囊腺癌, 左肺氣管枝類癌, 右肺多形細胞單純癌. 癌, 30年, 344頁. 21) **鈴木清治,** 他臟器ノ異種癌ヲ併發セル胃癌例報告. 日本外科學會雜誌, 25回, 1550頁. 22) **鈴木信義,** 本邦ニ於ケル惡性腫瘍ノ統計的研究(前編). 京都醫學雜誌, 15卷, 849頁. 23) **藤須鑑,** 癌腫ノ原因及ビ發生. 診斷ト治療, 昭5年11月, 臨時増刊, 616頁. 癌腫ノ遺傳. 同誌, 630頁.

## 附 圖 說 明

第1圖, 第3圖共ニZeiss Objective a\*, Okulare Homal I (約44倍).

第2圖, 第4圖共ニZeiss Objective Apochromat 20, Okulare Homal I (290倍). 所見: 胞巢狀

構造ヲ呈スル細胞群ニアリ核ノ間接分裂ガ見ラレ又特ニ「エオジン」ニヨリ染マレル比較的圓形ノ小體アリ。(圖aニテ示ス所デ癌眞珠ナリ). 間質(b)ニハ淋巴球, 「エオジン」嗜好性細胞多數ミラル.